

木々の緑がまぶしい季節になり、クールビズも始まりました。過ごしやすい季節は短いですね。現在会員登録数 2,291 人さま。次号は 6 月 20 日発行の予定です／

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》読書活動ボランティアのためのワンポイント 81

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● 第 16 回国際グリム賞の受賞者が決定しました

世界の優れた児童文学研究者を顕彰する第 16 回「国際グリム賞」(国際児童文学研究賞)の受賞者が、ロバータ・シーリング・トライツ博士(アメリカ・イリノイ州立大学教授)に決定しました。贈呈式および記念講演会は、本年秋に開催する予定です。詳細は後日お知らせします。

主催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団／

一般財団法人 金蘭会／大阪府立大手前高等学校同窓会 金蘭会

詳細は→ http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/01_grimm/index.html

● 連続講座「アメリカと日本の子どもの本—その関係をさぐる」

戦後、アメリカとの関係は日本社会に大きな影響を与えてきました。子どもの本の世界も例外ではありません。日本がアメリカの子どもの本をいかに受け入れてきたのかを考えることによって、子どもの本の本質に迫ります。

講師：三宅興子(当財団特別顧問、梅花女子大学名誉教授)

日時：5月27日(土)、6月24日(土)、7月22日(土)

各回 午後2時～4時

場所：大阪府立中央図書館 2階大会議室 (東大阪市荒本北)

内容：

第1回「アメリカの児童書の歴史：アメリカから贈られた子どもの本から考える」 *参考テキスト「ベル・コレクション解題目録」500円

第2回「アメリカから日本へ絵本がやってきた：「岩波子どもの本」と「世界傑作絵本シリーズ」

第3回「『ちびくろサンボ』がたどってきた道：イギリス・アメリカ・日本」

定員：各回 50名(申込先着順)

参加費：各回 1,000円

主 催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団
助 成：子どもゆめ基金助成活動
お申し込み、詳細は ↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html

● 国際フォーラムの報告集を販売しています

昨年5月に開催しました国際フォーラム「いま、アメリカの子どもの本を考える」（主催：当財団、共催：日本イギリス児童文学会）の報告集。レナード・S・マーカスさんと三宅興子さんの講演、対談を記録しています。
発行：当財団 2017年3月 A4判 34頁 1000円+税

● 記念展示「マンガを楽しもう！」

インターネットでマンガについて知ったり、お気に入りのマンガを探したりできるサイト「マンガのひみつ大冒険！」の公開を記念して、サイトに掲載のマンガの中から国際児童文学館所蔵作品を展示する「マンガを楽しもう！」展を開催しています。紹介している作品の一部は、国際児童文学館内で読んでいただくことができます。

会 場：大阪府立中央図書館 国際児童文学館 展示コーナー

期 間：開催中～6月28日（水）午前9時～午後5時

休館／毎週月曜・第2木曜、6月6日（火）～9日（金） ・入館無料

主 催：大阪府立中央図書館 国際児童文学館 /

一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

ウェブサイト → <http://manga.iiclo.jp/>

（平成28年度子どもゆめ基金助成活動）

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

【2】コラム

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

『明日のひこうき雲』八束澄子/著 ポプラ社 2017年4月

対象年齢：小学校高学年以上

あらすじ：遊はひこうき雲を見るのが大好きな中学一年の女子。母がうつ病のため、制服が汚れていたり、給食が唯一の食事であったりする毎日を送っていた。小学一年生の弟のダイを学童保育へ迎えに行くために卓球部をやめたが、サッカー部の金城君に恋をし、友だちの満里と転校生のあさみとともに押しかけマネージャーになる。

T：14歳の心理が巧みに描かれた作品。親に対しても厳しい視線を向け始める時期、身の周りの事が客観的に見られるという意味で、大人の判断はで

きても、現実には力がなく、立ち往生してしまう様子がよくわかります。

Y：母親と母方の祖母がけんかをしているのを見て、遊は、祖母を批判的に見ているにもかかわらず、祖母と母が次に出会った時には仲良くして肩すかしを食らうところにも、人の評価をはっきりさせたい14歳の潔癖さが現れていると思いました。

T：この作品は、遊の一人称で書かれており、そのことによって、文章が安定していて読みやすくなっています。

Y：私がこの作品を中学生に読んで欲しいなと思った理由は、家のローンのための貧困、親の心の病など、現実の社会で多くの中学生が直面している問題を描き、そのことについて遊が感じたり考えたりしたことが遊の内言としてことば化されている点です。そういう家族問題を抱えながら、学校生活では友だち関係や恋愛が描かれて読まされます。

T：遊が恋した金城君は、沖縄出身の少年で、シングルマザー。過去に遊と同じような経験をしていたことがわかります。重なる境遇のものが惹かれ合うという設定に納得しながら読みました。

Y：遊はファンキーモンキーベイビーズの曲に励まされ、空に浮かぶひこうき雲を見ながら自由を夢見ます。音楽を聞いたり風景を見たりすることで、閉塞感から抜け出そうとする姿勢も14歳らしいなと思いました。

T：家庭と学校と、遊の生活の全部がよく見えるように描かれています。母親はいったんは睡眠薬を飲みすぎて救急車で運ばれるものの、快復に向かいます。その過程も自然に受け止めることができました。

Y：最後はハッピーエンドになっていますが、家族関係でも学校生活でも一つ歯車がくるっていたら、遊はもっともっと厳しい状況に身を置かなければならなかったと思われます。中学生は結末をどう読むのか知りたくありません。

* 今回のゲストは当財団の宮川健郎理事長（T）です。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第21回「注文の多い料理店」（その2）

命を奪う行為への自覚と気づき

前回に続き、「注文の多い料理店」を取り上げます。生前唯一の童話集の表題にもなった作品で、賢治童話の代表作の一つとされています。

食べるつもりで紳士が、実は山猫に食べられる側だったというまさかの展開。「捕食（食べる）」「被食（食べられる）」といういわば食物連鎖的テーマは、「ビジテリアン大祭」など、他の賢治作品群にも見られる主要な柱と言えます。

格好良く着飾り、ぴかぴかの鉄砲で動物を殺したいと言い、飼い犬の命を金銭に置き換える横柄な態度の紳士たち。「食べる」つもりで自ら次々に扉を開け、山猫軒の奥深くへと進んでいきますが、それは同時に、「食べられる」扉を無自覚に開けて突き進むことでもありました。「食べる」ことは「食べられる」こと。賢治における、両者の関係性をうかがい知ることのできる作品です。

こうした、やはり「食」の問題を扱った作品に「よだかの星」（本メルマガ NO. 64 参照）「なめとこ山の熊」（同 NO. 62、63 参照）があります。〈実にみにくい〉鳥のよだかと、〈すがめの赭黒いごりごりしたおやじ〉の小十郎。決して格好良くない両者ですが、結末、いずれも死を迎えつつ、よだかは笑いながら〈燐の火のような青い美しい光にな〉り、小十郎は〈冴え冴えして何か笑っているようにさえ見えた〉と表現されます。

食物連鎖の輪から抜け出そうとしたよだかと、熊を殺し続けてきた負い目を熊に殺されることによって贖罪とした小十郎。共通するのは、生きることは食べること、命を奪うという行為への自覚、気づきだと言えます。

一方、紳士たちは考えてもいなかった「食べられる」ことへの恐怖から心を痛め、山鳥を十円だけ買って東京に戻ることはできましたが、〈いっぺん紙くずのようになった〉顔はもう元には戻らなかったとあります。

〈くしゃくしゃの紙屑のよう〉な顔が〈どことなく紙幣を連想させる〉（築田英隆「注文の多い料理店」考 1995）との指摘がありますが、命を金銭には換算できても、それを奪うことの重みに無自覚なことが、死すら与えられず、金に固執する醜態を晒し続けるという行く末を暗示するように思われます。それが、気高く昇天したよだかや小十郎との違いを際立たせるのかもしれない。（ペ吉）

（本文の引用は、角川文庫版『注文の多い料理店』『銀河鉄道の夜』『風の又三郎』によりました。）

《3》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 81

その10 学校でのおはなし会（13）高学年や中学校でのおはなし会

最近、ボランティアによるおはなし会の対象年齢が広がり、小学校高学年や中学生に向けておはなし会を行うグループも増えてきました。その方たちから「どんな本を選べばいいのか」という質問をよく受けます。この連載の「その5 絵本の選び方(10) 絵本を評価する：ジャンルk. 小学校高学年～中学生向けの絵本」（本メルマガNO. 25）で絵本については既に述べていますが、おはなし会の持ち方という観点でまとめておきたいと思います。

思春期の子どもたちは幼児や低学年の子どもとは異なる感性で物語を楽しみます。「アイデンティティ」「友だち」「恋愛」「家族」「将来」などについての悩みも深くなり、興味・関心も多様になります。昔話には、例えばグリム童話「漁師とおかみさんの話」のように、このようなテーマを物語として楽しみながら、考えさせてくれる作品が多くあります。子どもの目を見ながら語ることによって、語り手の物語への思いが直接伝わるという点でも、可能であれば、プログラムに「おはなし」を入れることをおすすめします。

絵本に関しては、大きく2つのカテゴリーに分けられます。1つは、幅広い年齢に受け入れられる作品。ことば遊び絵本のように抽象度が高く、哲学的に読める絵本や、昔話絵本のように、多様な読みを可能にする絵本です。

2つ目は、いわゆるヤングアダルト絵本。最近の作品でいえば、『ぼくはかわです』（植田真/作 WAVE 出版 2016年7月）のように、川が一日の風景を語る中で、アイデンティティやコミュニケーションを描いた作品や、『あおのじかん』（イザベル・シムレール/文・絵 石津ちひろ/訳 岩波書店 2016年6月）のように夜の神秘を多様な青で表現した美しい絵本や、『だれかぼくをぎゅっとして!』（シモーナ・チラオロ/作・絵 おびかゆうこ/訳 徳間書店 2016年2月）のように、サボテンが誰かに抱きしめて欲しいと願うユーモラスな絵本などがあります。

いずれにせよ、幼い子どもに比べて大人への不信感や警戒感がある思春期の子どもへは、絵本を読んであげるというような上からの目線ではなく、対等な人間として、まっすぐに向き合うことが大切だと感じています。忙しくてとげとげした日常に、物語によって心が少しでも潤えばいいなと願います。

*次号は「その10 学校でのおはなし会（14）」の予定です。

質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思います。（Y）

《4》 行って来ました！

神戸ファッション美術館で6月25日まで開催されている特別展示「夢二ロマン 神戸憧憬と欧米への旅」に行ってきました。この展覧会では、竹久夢二が晩年に滞在した欧米での作品、日本での肉筆画、木版画、絵封筒やカードなど夢二がデザインした作品など、約200点が展示されています。

会場に入ると、夢二が約2年半旅したアメリカやドイツ、フランスなどで描かれた作品が並んでいます。訪れた先の港や牧場や家などの素朴な風景、市場で働く人や、店でお茶を飲んだり、雑談している人物のスケッチには、動きや温かさを感じます。外国の女性の素描や油絵や水彩画などは、しっかりした体つきやこちらを見つめる目など、夢二と聞いて思い浮かぶ華奢で憂いを帯びた表情の美人画とは違って驚きました。

日本での肉筆画は、掛け軸に表装されたものがずらりと並んでいます。他にも、屏風に描かれたもの、団扇や丸い色紙に描かれたもの、関東大震災直後に新聞に掲載された絵などがありました。色白でうりざね顔の細身の美人画は、舞妓姿のもの、化粧をしているところ、夕涼みや星まつり、こたつにあたっている姿など、季節を感じる絵がたくさんあり、美しい着物の柄を見比べながら楽しみました。

印刷された作品では、「婦人グラフ」の表紙や口絵の木版画や、セノオ楽譜の表紙、夢二が装幀した本など、モダンなデザインがおしゃれです。前半は夢二らしくない絵に夢二の特徴を探したり、海外で夢二がどんな思いでこんな絵を描いたのかを考えたりすることが楽しく、後半はいつもの夢二作品にほっとしながら作品を楽しみました。（K）

【3】全国のイベント紹介

● 描かれた大正モダン・キッズー婦人之友社『子供之友』原画展

会 場：刈谷市美術館（愛知県刈谷市）

会 期：開催中～6月4日（日）午前9時～午後6時 月曜休館

入場料：有料 中学生以下無料

主 催：刈谷市美術館／NHKプラネット中部／朝日新聞社

◇ 公開研究会「大正期の子ども文化をめぐって」

日 時：6月3日（土）午後1時から4時

会 場：刈谷市美術館 2階研修室

発表者：酒井晶代（日本児童文学学会中部支部・愛知淑徳大学教授）

高橋知子（日本風俗史学会中部支部・愛知学泉大学教授）

高木佳子（板橋区立美術館学芸員）

参加費：無料（ただし観覧会チケット要）

定 員：80名（当日先着順、申込不要）

主 催：日本児童文学学会中部支部／日本風俗史学会中部支部／刈谷市美術館

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

【4】プレゼント

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『明日のひこうき雲』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガNO.81プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は6月12日(月)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

ついに運転免許証を自主返納した。元々ペーパーだったが、それでも少し寂しい気がした。代わりに「運転経歴証明書」は、一見免許証と見紛うくらいなのがうれしい。そして、いくつかの特典が付いてくる。

バスが1年間だけ1回100円（通常は最低210円）になる。通勤帰りになぜかよく乗るタクシーは1割引、無期限（死ぬまで!?)は有難いが回数が増えそう。いや待て、これしきで乗せられてたまるか・・・(A)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメルマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp
